

全体会午後の部Ⅱ

司会者 それではただ今より全体会午後の部Ⅱを行いたいと思います。まずは後半1本目の意見発表です。「G」中学校3年kさん「同和問題を学んで思うこと」です。お願いします。



同和問題を学んで思うこと

「G」中学校3年 k

私たちは、「G」中学校で3年間人権学習をしてきました。その中でも、他の差別より、多く学習してきたのが同和問題についてです。私たちは1年生の時には、中倉茂樹さんに出会って、3年生になっても中倉宏美さんのDVDを見ました。

私は1年生の時に、2008年度の鳴門市人権地域フォーラムに参加しました。そこで初めて、中倉茂樹さん、宏美さん、里温(りおん)くんに出会いました。フォーラムに行く前からDVDで中倉さんが講演会などで語っているのを見ていたので、すごく言葉に迫力のある人だなとは思っていました。でも、実際に会ってみると、その迫力はDVDで見た以上のものでした。中倉さんが発した言葉一つ一つが心に残るというか、とても印象深いものでした。

そして、結婚する時に受けた結婚差別について語ってくれました。両親が結婚を認めてくれず、つらい気持ちの宏美さんのために、茂樹さんは仲間を集めてくれたそうです。その実行力もそうですが、一人ひとりのために集まろうとできる優しさや結束力に、私はすごいなあと思

いました。

また、もう一つ印象に残ったことがあります。それは、宏美さんの「自分が変わる」という言葉です。私は誰かと喧嘩をしたときは、かたくなに自分を押し通してしまいます。だから、意地を張ってしまい、自分が変わるなんてなかなかできません。相手が折れてくれることだけを考えてしまうのです。でも、宏美さんは「相手が変わらないなら自分が変わればいいんだ」と気づいて気持ちが楽になったと言っていました。私はその言葉を聞いて、「自分が変わることの大切さ」を教えられました。

3年生になって最初の創世ホールでの人権学習の時、森口先生は、「同和問題を知らないことは残酷なこと」とおっしゃっていました。私はそんなことを今まで考えたことはありませんでした。確かに、きちんと同和問題のことを知らなかったら、横で誰かが部落差別をしてもよく分からず、止めることができず見て見ぬふりをしてしまうと思います。

こうやって、日本中で同和問題を知らない人が増えたら、同和問題はなくなりません。私は今まで、どうせなら、もともと知らなかった同和問題をわざわざ学校で習わなくてもいいのに、習って知ってしまったら、余計に部落差別をする人が増えるんじゃないのかなと思っていました。でも、その考えは間違っていました。中学校に入って、もし、創世ホールでの人権学習や中倉さんたちとの出会いがなければ、部落差別が間違っていることも知らなかったし、こんなに同和問題について考えることもなかったと思います。

まだ、同和問題について知らないことがたくさんありますが、これからの人権学習で同和問題についてもっと勉強し、どうしたらなくせるのかを真剣に考えていきたいです。

司会者 ありがとうございます。どうぞ元の席に戻ってください。続いて後半2本目の意見発表です。「Y」中学校2年1さん「自分と

「恩師と親父と部落」です。よろしくお願いします。



自分と恩師と親父と部落

「Y」中学校 2年 1

「被差別部落」この言葉を聞くと、中学1年生のころを思い出します。

2009年4月9日。「Y」中学校の入学式がありました。ボクは、中学校生活での文化祭や運動会をすごく楽しみに中学校へ入学しました。担任の先生は、女の人で冗談もよく言うし、とてもおもしろい先生でした。今では、その先生のことを「恩師」と呼んでいます。

「キミたちは、被差別部落って知ってるかな？」

その時、ボクは「被差別部落」なんていう言葉さえ知りませんでした。知っている人は、4人ぐらいでした。そして、ある男の子がこう言いました。

「生まれた地域や場所によって差別すること。」

ここが、ボクと部落との出会いなのです。その日の晩、「被差別部落」に対して興味が湧いてきて、母に聞きました。「部落って何？」その時、母は少し顔をしかめながらこう言いました。

「1、おまえが部落。お前が部落ぞ！お父さんがな、その被差別部落の出身なんよ。」

ボクは、何を言っているのかまったく分かりませんでした。元々、部落差別っていうのは、地域における差別であり、部落出身じゃないボクがどうして部落の人なのか？

それは、「結婚」でした。故江口いとさんの

「人の値うち」の詩にあるように、「立派な家の娘さんが部落にお嫁に来る。でも生まれた子どもはやっぱり部落の子だと言われる。どうやら人の値うちは生まれた所によって決まるらしい」。こちらの場合は、親父が部落、母は部落ではない。2人は、母のお父さんの反対を押し切って、見事に「結婚」したのです。

では、なぜ反対したのか？それは、親父が「部落の人」だからでした。被差別部落の人たちは、怖いとかケガれているとか、いろんな偏見で差別されてきました。まさに、そのケガレとされているのが親父だったのです。しかし、ボクは親父のことをものすごく尊敬しています。なぜならば、結婚のあいさつの時に、「ボクは部落の人です。」と言っているからです。ボクも結婚の際に言いたいと思います。この、降りかかってくる差別をどう受けとめ、さらにその差別者とどう向き合うかが大切だと思います。

ボクは、山口県人権啓発センター事務局長の川口泰司さんの講演を、去年のこの中学生交流集会で聴いてから、心が一瞬で解放されました。それは、福岡県での識字学級で、川口さんが出会ったおばあちゃんに言われた一言です。

「何が恥ずかしいことがあるんよ。差別するもんがおるけん、されるもんがおるだけぞ。部落があるけん差別があるん違うぞ。あれは同和やワシらとは違うって、人を差別でもせんと生きていけれん、自分に自信のない醜い生き方しよるやつがおるけん、うちら差別されとるだけぞ。なんちゃ下向くことない。胸張って生きんしゃい。」

差別される側に問題がないなら、部落差別やそのほかにも多数の差別の差別がありますが、そんなことなんて怖くない。何にも恐れることはない。恩師、親父その他いろんな方の体験をもとに自己解放し、胸を張って自分が「部落の人」と言えるようになりたいです。ご清聴ありがとうございました。

司会者 ありがとうございました。どうぞ元の

席に戻ってください。続いて後半3本目の意見発表です。「T」中学校3年mさん「私と母の願い」です。よろしくお願いします。



私と母の願い

「T」中学校3年 m

私の母は部落出身です。これを聞いて、みなさんはどう思いますか。その母から生まれてきた私は、差別の対象なのでしょうか。

母は、昔から差別を受けていました。「あの子と遊ばれん。」とか、「目を合わされん。」と言われていたそうです。そう話してくれた時の母は、すごく悲しそうでした。母は、今も「人から悪口を言われているのではないか」とおびえながら生活しています。私は、母が部落出身でも、何も恥ずかしくありません。なぜならば母は何も悪いことをしていないし、差別される理由がないからです。私はそういう差別を受けたことがないので、そういう苦しみはあまり分かりません。でも、母の話聞いて胸が苦しくなりました。母は差別を受け続けてきたのに、ずっと我慢してきました。でも、そのことを勇気を出して話してくれた母は、私の自慢の母です。

私は、今まで差別解消の一步を踏み出せずにいました。自分には関係ないと思っていたし、差別について考えたり口に出すことが、怖かったからです。でも、母の苦しみを、ひとりでも多くの人に知ってもらうことで、少しではありますが、みんなの人権への考えが変わり、私も一步を踏み出せるかもしれないと思って、話を

することにしました。

「人は口だけで何も実行しない。」と母は言っていました。その人の中に、私も入っていたことに私は気付きました。私の心の中にも、差別する心があります。それは、障がいを持つ人を「気持ち悪い。」とか「私とは違う。」と思う心です。心のどこかで「私は大丈夫」とか「私は普通で良かった」とか思っていました。人はどうして、他人と自分をくらべてその違いを見つけようとしてしまうのでしょうか。そして、人との違いを差別の対象としてしまうのでしょうか。人と違うことは、言い換えれば個性であるはずですが。それを認め、受け入れる心の広さがどの人にも必要なのではないのでしょうか。私は、これから本気で人権について考えたいと思っているし、人権学習に取り組んでいくつもりです。

私は広い心を持ちたいと思います。私には目標があります。それはみんなの笑顔を守るということです。今、たくさんの方が差別を受けています。私は、ひとりでも多くの方が笑顔になって、悲しい思いをする人がなくなる社会を作りたいです。私はもう差別から逃げません。負けません。母のおかげで強くなれた気がします。私の大切な家族や友達を傷つける差別は、絶対に許しません。みんなが笑顔の世界はまだまだ遠いけど、みんなが笑顔の町は近いかもしれません。どんな差別もこのまま残してはいけません。私は差別をなくすために立ち上がり、私にできることを考え続けていきます。つらい思いをする人がいなくなりますように。それが私と母の願いです。ご静聴ありがとうございました。

司会者 ありがとうございました。どうぞ元の席に戻ってください。それではこれから意見発表を通しての討議に移りたいと思います。発表についての感想や意見交換、参観者のみなさんの思いを語っていただければと思います。また前半で発言しきれてない人や、付け加えたい内容のある人は、これが最後のチャ

ンスとなりますのでぜひ発表してください。
なお記録の関係上、発表者は学校名・学年・名前を言ってから発表してください。それではよろしくお願いします。

「G」中学校 n 2年のnです。ボクは、一人目の方が言っていた「一人のために助け合う」という言葉にとっても共感しました。人は弱くて一人では生きていけないので、みんなで助け合って生きていくことは、とても大切だと思います。みんなで助け合って生きていくのは、差別を減らすことにつながると思うので、これからはボクも友達と助け合って生きていきたいと思います。



「W」中学校 o 3年生のoです。最初は意見を言えなくてすいませんでした。最初のと今の発表を聞いて伝えようという気持ちが伝わってきたので、いい勉強になりました。ありがとうございました。

「G」中学校 p 1年のpです。さっきの人の話を聞いて、ボクも差別をしていた時があります。だから、さっきの話を聞いて、とても自分が恥ずかしくなりました。だから、これから気を付けていきたいです。

司会者 他にありませんか。ボクは、さっきの発表を聞いていて、ボクがもし部落差別をされても、差別をされることは恥ずかしくないなので、思い切って胸を張っていきたくて思いました。qくん、どう思いますか。

「W」中学校 q 3年のqです。bくんが言ったように、ボクも差別される側に責任はなくて、自分も自信持って生きていけばいいと思うので、どんどんこういう仲間を広げていきたいと思いました。

「G」中学校 r 3年のrです。さっきの全体会午後の部Iの方で、いじめられる方が悪いとかそういう話になってたんですけど、この部落差別は本当に差別される人には100%非はないと思います。で、2番目の人の話に出てきた「差別する人がいるから差別される人がいる。」って言うんに、「ああ、ほんとにそうだな。」って思って本当に胸をはって生きていくべきだなと思いました。で、私のまわりにも部落出身といっても堂々と胸をはっている人がいるので、ものすごいなって思って、そうあるべきだなと思いました



「G」中学校 s 3年生のsです。私もrさんと同じで、この部落差別に関しては、差別される側には絶対に非がないと思う。私の父もすごく部落差別をする人で、小さい頃からずっと「部落の人とは結婚したらあかんよ」ってずーっと言われてて。今も言われてて。でもそれは小さい頃、3、4歳の頃は部落はダメなんかなって思ってたんだけど、小学校に上がって道德の勉強したりするうちに、それは絶対違うと思って。中学校に入って中倉さんと出会って、ほんとに中倉さんの講演を2回ほど生で聞いて、あとDVDも見たりして、

ほんとにいい人だと思うし、人間として本当に尊敬するし、絶対そんな差別されるような人じゃないのに、勉強が足りないとか部落差別への理解がない人によって、差別されていくというのは、本当にひどいことだと思いました。部落差別をなくすためには、私たち中学生とかがちゃんと勉強して、どんどん理解を深めていったらいいと思います。

「W」中学校 t 3年のtです。最後の人の話を聞いて、差別されて自殺する人が多くいるので、もし差別する人を見かけたら自分から注意できるようにしたいです。

「G」中学校 u 2年のuです。さっきの発表にあったように、部落だからとか障がい者だからといって差別される人をなくしていくには、まず自分たちが差別されている環境を理解していくことが大事だと思いました。その人たちを認めたり理解していくことは、すごく簡単で誰にだってできることだと思います。ただそれに踏み込めていないだけで、いつでも踏み込むことはできると思います。私の好きな詩に「許す心」というのがあって、「どうしても好きになれない人がいる うまくやれない人がいる でもそれは許す心を育てるために 神様がくれた自分への課題」というのがあります。「許す」といったらちょっと分りにくいかもしれないけれど、自分が嫌だと思う人や、どうしても苦手だなと感じてしまう人のことも理解して行って、その嫌いな部分も全部まとめて相手だと思って、その環境も同じで、全部を理解していくには時間がかかるかもしれないけれど、とりあえずそういう行動を起こしてみるのが一番大事だと思いました。

「T」中学校 v 1年のvです。私もさっきの人の発表を聞いて、部落だからとか障がい者だからと言って差別するのは、確かに間違っ

ていると思うし、障がい者を差別するのは偏見で、それもそれぞれ人の個性だから、人がとやかく言うことでないと思うので、とりあえず相手のことを知ろうとして理解を深めていったらいいと思います。

「T」中学校 w 2年のwです。ボクの学校では、いじめている人に「そういうんやめろよ」って言ってもやめない人が多くて、そこら辺ではボクもよく分からないので、みんなの学校ではどのようにしているか聞きたいんですがどうですか。



「Y」中学校 x 3年のxです。私の所は、部落差別とはまた違うんですけど、さっきの意見でいじめとか、ほういうんが起こった場合、ほういう差別なみたいな感じが起こった場合、まず話し合いをしています。今まで、いろんな問題が起こった場合、まず取り組んだのは、みんなで話し合っって意見を言い合っって、解決の方向へ導いていこうとするっっていう感じで取り組んでいっっています。

司会者 今の意見を聞いて何かありますか。質問とか何かあったらしてください。今、「T」中学校のwくんが質問してくれたことに、何か意見とかアドバイスとかがあったら言ってあげてください。

「T」中学校 y 三年のyです。wくんの質問に答えようと思います。まずはその問題を、ホームルームとかで積極的に取りあげて、話題

にしていくことだと思います。そしたら多分、いろいろな人の意見とかも出てくると思うし、どうにかなると思います。

司会者 なければ同和問題や部落差別の方に戻したいと思うんですが、他に意見とか発表はありませんか。感想でもいいんで。

「G」中学校 z 3年のzです。さっきの質問に答えたいんですけど、「G」中学校では差別とかが起きないように、部落差別での結婚差別で苦しんだ中倉さんの講演を聞いたりビデオを見たりして、差別がどんなにひどいことか学んでいるので、あまり差別はないと思うんですけど、もし見つかったりしたら、学級で話し合ったりして解決できていると思います。私のクラスではそんなことはないと思うので、これからもなかったらいいと思います。

「F」中学校 aa 先ほどのいじめの問題についてなんですけど、学年全体で「心の集い」という話し合いの場を作っています。そこでいじめのことも取りあげたりするし、差別のことも取りあげたりします。たまにしんどい子とか、泣いたりしよる子もおったりしてるんですよ。でも、その子のためにみんな支え合って話し合ったり、何とか乗り越えています。

「N」中学校 bb 3年のbbです。私の学校でも識字学級とかに行って勉強してるんですけど、そこのおばあちゃんたちが差別に耐えながら一生懸命がんばってきて、自分の生き方を誇りに持っていることがすごいなと思いました。だから、私もその生き方を学んで、差別にあっている人を助けていきたいなと思います。

「G」中学校 cc 2年のccです。私は差別についての意見を言います。私が小学校の時、帰り道で杖をコンコンコンって叩いている人がいたんですよ。それで、その人が目が悪い

人なんだなって分かりました。でも私は、その時その人を見て、「かわいそうだな」とか「気持ち悪いな」とか思ってしまいました。でも今考えると、「何でそんなこと考えたのかな」って思います。だから私は、一人一人の個性を大切にすることが大切だなと思いました。

司会者 すいません。ちょっと質問したいんですけど、識字学級って何ですか。

「N」中学校 bb 3年のbbです。部落差別を受けた人で、差別を受けて学校に通えなくて、字を学べなかった人たちがお年寄りになったり大人になってから字を学習するところです。

司会者 すいません。いじめとは関係なく同和問題の方へ戻るんですけど、「Y」中学校3年のxです。今、識字学級の話が出たんですけど、やっぱり字の読めないおばあちゃんや書けないおばあちゃんがおるってことは、部落差別があって、部落だからいじめられたりとか、お金がなかったりとかして学校に行けなかった、字が読めないわけですよ。だから、何となくほれで思ったんは、何で字が読めないのに国はどうして対策をとらなかったのか、教育委員会は どうして対策をとらなかったのかとか、何となくほこまでほういう結果にしてしまった責任は誰にあるんだろうかなって疑問に思ったんですけど。私はやっぱり国とか教育委員会とかが差別とかほういうのに興味がなかったからかなと思ったんですけど。みなさんどう思いますか。

「G」中学校 dd 3年のddです。さっきの質問なんですけど、その時はたぶん生活とかもいっぱいいっぱい、国とかもしたとしても、多分なかなか行ったりもできないと思うんですよ。だから今、大人になってだけれど、学んで、それからの生活に役立てようとしてい

るんだと思います。終わります。

「G」中学校 ee 「G」中学校の ee です。国の対策とか言ってたんですけど、具体的に国の対策ってどういうのかなって思ったのと、その国の対策ってというのがもっと教育を受けさせるという対策だとしたら、やっても部落差別を受けることによって学校に行かなくなると思うんですけど。

「Y」中学校 x x です。それは、部落問題についてちゃんと学習することが、一番の対策だと思います。やっぱり部落問題について学習したり、差別はいけないってことを学習しないと、学習しないまま上がってきた人が、今の40代、50代なんですかね。その世代くらいに、「部落はこういう人が多いんだ」みたいな部落の悪いイメージを押し付けてる人がおると思うんで。対策といえば、まず部落問題について学習することだと思います。

「Y」中学校 ff ff です。さっきから問題の対策をしないのは、国だとか政治家の人たちだとか言ってたと思うんですけど。私は一つの意見が出てきて、その時代が、日本も復興中でお金もなかったからってという意見があって。私が考えている中では、日本は国民が主権を持っているじゃないですか。だから、選ばれた人が総理大臣になったり、選挙で勝ったりして。その人たちが部落の人たちの意見を聞かずに、部落の人を嫌っている人たちの意見を国が受け入れたんじゃないかなって思いました。その当時の状況もあると思うんですけど、そう思いました。国会の意見、国民の意見がそうだから、国はこうやって対策をしているんだっていうのが、国の方針でもう決められていることなのかなと思いました。以上です。

司会者 突然ですが、中倉さんどうでしょうか。



中倉茂樹さん 司会者の人に聞きたいんですけど、何についての問い返し？前までの話かな。それとも、今の識字学級の話。どっち？どちらでも？それ話すると長いけど、識字学級のことなんかは、みんな識字学級に実際行って、聞き取りした方が早いと思う。ほんで簡単に言うと、みなさんに想像つかんと思うけど、今のおじいちゃんおばあちゃん、識字学級行ってる人たちが、学校で勉強できなかった。学校行けなかった理由は二つあります。一つは、家の仕事が忙しくて家の手伝いする方が最優先やった。だから、うちのじいさんばあさんもそうなんですけど、学校や行かんと家の手伝いしてくれっていう親の方が多かったですよ。はっきり言って。だからね、字を学べなかった。ほんで、もう一つ、学校に行けたとしても、学校に行った際に学校の先生から被差別部落の人間であるというせいで、学校の先生が差別してた現実があるんです。教科書タダでもらってる理由とかも、そんなのみんな知ってるかな。知ってる人、手を挙げて。あれは、そっから始まって、高知県のNっていう被差別部落のおじいちゃんおばあちゃんから始まって、運動で。「義務教育は無償とするって書いてあるのに、何で教科書はタダちゃうんな」っていうて、それでみんなに教科書が無償で配られるようになったのは、国の力、国が何かしようとしたからじゃないに、被差別部落の学べなかった人が中心になって国に要求して。だから、そういうところで平等に、みんなで一緒に求めていくと

ころで、誰でもが勉強する機会を作るために、教科書がタダでみんなに配られるようになったってことなの。分かる？その辺分かる？それ理解してくれた？そこで、識字学級の人たちには、最初に国から何か、「あなたたちね、勉強できない人、ほな集まってきてね、よかったら勉強してね。」って言うたのじゃないのよ。最初はみんなが集まって、そこに教えてくれる、先生でもない人らが集まってきてくれて、その文字を書けん人に知っとる範囲内で、その人らに紙を刷って、自分らで勉強を自主的にしてきて、それが制度として「国の責任ですよ」って認められてきて、それで今は、識字学級がみんなに受け入れられるようになってきた。だから今は、部落の人だけじゃなしに、例えば外国籍、外国から来た人らがその識字学級で学んだりしてるわけ。オッケー？分かった？だいたい分かった。オレの話したいことは全然そういう話じゃないんよ、実を言うと。いいかな。今日、うちの連れ合いの宏美ちゃんも来てくれてるんですけれども。実を言うと、みなさん方に伝えたいことが一つあって。例えばいじめの問題だけじゃなしに、実は今ね、ボク、今こうやって講演会、年間だいたい150回くらい行ってるんですけれども。その時にいつもボクこう思うんよ。「申し訳ないなあ」と思う。子どもたちに。さっきもな、いじめの話しよったで。「いじめる側も、いじめられる側もがんばらなあかん。努力も必要や」って言よったんやけど、ボク思うわ。「ほの周りの先生、何しよんな」って思うわ。はっきり言って申し訳ない。大人として。指導者として。ほなってな、今日、鳥取県の大山町から来てくれてますけど、実はな、鳥取県のある高校に行った時にな。そこに講演に行ったときにな。講演の雰囲気あまり良くなかったの。みんな聞いとうけど、聞いとうふりだけしとったの。「うわあ、なんかこの学校、冷たい学校やなあ」と思うとった。ほったら終

わったらな、3人来てくれたんよ、控え室に。一人は男の子。二人は女の子やった。そしたら一人の女の子がボクにな、「中倉さん、すみません。よう口で言わんので、手紙書いたんで読んでください。」って、オレ渡されたん。それ、高校3年生の子や。で、見たらな、「実は今クラスの子にいじめにあっています。全員から無視されています。そのことをうちの母親に言うたら、母親は『絶対に学校休みなよ』って言いました。担任の先生に相談したら、もうちょっとやけん、お前、がんばれって言われました。でも私、もう学校に行きたくないんです。私どうしたらいいでしょうか。つらいです。」って手紙くれた。ボク、その時に、まわりに先生が7人くらいおったんよ。PTAの人もおったわ。ほの時にボク、その手紙読んでな、『このことみんな知ってましたか。』ほしたら、そこにおった教員全員言うたでよ。『知りませんでした。すみませんでした。』って言うたでよ。ボク思うよ、ほんな状態になるまでな、周りの人間分かるだろって。気付けよって。ほうちやうん。一緒に生活しとるんちやうん、同じスペースで。ボク、ほんでほの子の対応として、すぐ言うたわ。「あ、キミな、学校行かんでええ。かんまんけん休みな。ほんでお母さんに言いな。いじめがあるんは学校の先生の責任、学校側の責任やから、必ず卒業できるようにしてあげるから、学校に行かんでよろしい。行きたい時だけ行ったらええ。」って。ほんで学校の先生に言うて、「きちんと家庭訪問して、親にちゃんと説明して、ほんでほの中におる周りの人間で、ちゃんと指導しなさい。」って。「いじめをなくしてから、その子が学校に行ける、そういう雰囲気を作りなさい。」って。「ほれが高校の役目ですよ。」って、ボク話した。その子、ほの後もな、ずーっと休みがちで学校たまにしか行かんのよ。昼ご飯食べる時も、先生と一緒にご飯食べるんやわ。ほんな時にな、「お前、夢あるか。将来何に

なりたいか。」って女の子に聞いたら「私は人を救いたいです。」って言うたわ。「人を救いたいです。」って。ほの子、学力めっちゃ優秀やねん、実は。勉強めちゃくちゃできるねん。ほんでいろんな大学探す中で、実は森口先生、徳大にね、今、心理学系のね、おもしろい全国でも珍しい学部あるんでしょ。そこを受けてな、実は合格して、今、徳大に来るんよ。将来そういう人を救える心理学。



いじめられとる側が何も言葉を発せんでも、みんなの心が、それを感じ取れる、そういう職業に就きたいって言うたわ。ボクほの時にな、この活動しとってよかったなって思った。その高校へ、鳥取へ行ってよかったなと思った。ほんで、ように話聞いたら、その高校って実は、一年前に野球部の一年生の子が、部活動でいじめ受けて首つり自殺しようとしたんやって。その時にな、大人が発見して止めたんやって。その出来事があった、その後の出来事や。なおさら教員は頭にアンテナ張りめぐらさなあかん。休み時間に職員室戻ってコーヒー飲みよる暇あると思うか。ないよ、ほんな暇。命かかっとなじゃけん。ボクはそう思うんじゃ。だからな、ボク思う。大人としてな、指導者として申し訳ない。情けないなあって。リストカットな、しよる子おるよ。中学校、よう知っとるよ。だけどその子らがどんだけ周りの子に言えんで苦しんどってな、ほれを周り人間が知っとるかどうか。知らん大人が悪いわ。オレらが悪いわ。寄り添ってないわ。オレはそう思うよ。だっ

てな、オレの大学の同級生、実は女の子なんやけど。その子、被差別部落の出身の子なんよ。その子がな、高校で別の学校に転校した時に、何でか分からんけど、その子が被差別部落の出身ってことを知ったんよ。実は。ほんでほのことをネタにな、彫刻刀で机にこうやって彫るんでよ。「エタヒニン」とか。「お前は学校来な」とか彫るんでよ。上履きな、下駄箱の中の上履きに押しピン入れるわ、ほんな嫌がらせの手紙いっぱい入れるんでよ。ほんで、ほのボクの友達、どうしようもないけん、愛媛の子なんやけど、どうしようもないけん、自分が何かせないかんと思ったんだろ。家にあるバリカン持って来て、丸坊主にして登校したんでよ。ボク思うわ。ほんで登校した時にな、さすがにほの状態を見て、学校の先生がな、「お前ほれどしたんな」って初めて話聞いてくれたちゅうんでよ。女の子にそこまでさせな分からんか、気付かんかって。その前に、何かサイン出しとただらうがって、ボク思うわ。決してその子が悪いわけでないと思う。もし非があったとしても、ほんなことさす必要ないで。ボクはそんな中ずっとね、この活動に高校3年生の時から携わせてもらって。実際ね、差別は結婚の時だけでじゃないんです。最後に一つだけ言わしてもろうたら、今日、「T」の子来てくれてるよね。「T」の子もそうなんやけど。今、落書きで教育委員会から相談受けたりとか、実は徳島のある高校やけど、そこで差別発言があったんよね。ほんで、ここでおるみんなには知っといてもらいたい。何かというと、徳島県の子たちは、ほとんどの子たち、まあここでは部落の子多いと思うんやけど。徳島県の場合は、三大部落っていうて、まあ地名を出すと、〇〇町と△△町と□□の方にももう1個大きな部落があって、三大部落って呼ばれてます。それは学校で習わなくても、必ず20歳までに80%以上の子どもたちが、どこに部落があるかって、特にその三つは教

えてくれる。宏美ちゃんもそうやって教えられた人間。神山の人間。で、そんな中で、その高校の子が、実はアンケート調査の時に発言したんでよ。高校生だよ。この4月の出来事よ。配りよる時に、「あ、先生、これって△△のことですか。」ってパッと言うたわ。で、まずいと思って、高校の先生はすぐアンケートを回収しにかかった。ほったらその回収してる際に別の子が、「ああ、エッタのことですか。」って発言したわ。で、その時に高校の先生は「ほれはな、昔からこういうアレがあって差別的な意味があるから使ったらいけないんですよ。」って説明したの。それで焦ってあたふたした学校の校長先生が、ボクの知り合いだったけん、ボクのところ来てくれて、「講演してください」って、ボクが講演に行くことになった。でもな、講演したってあかんよ。全員な、「～してはいけませんよ。そのことは差別的な意味があるんですよ。」って言うた瞬間にな、その子らは次に貝のようにパチッと口を閉じたんやって。他では言わんようになる。そのまま大きいなって行って、結婚の時にわざわざ出てくるわけ。そんな中、ボクは講演させてもろうた。なんのことはないんよ、その高校の子っていうのはな、他の高校に行けんようになったりとか、やっぱり家庭の状況が苦しい子が集まってくる傾向があるの。ほしたら、講演が始まったらみんな歩きだすんよ。ボーッて。ほの時にボクな、「かんまんけん。体育館やったらどこ歩いてもかんまんけん、うろちょろしよってよ。」って言うたの。でも、ボク絶対分かるもん。前から見たら。絶対この子やは、歩き回りよってもボクの話聞いてくれよる。ボクいつも最後は歌うたうんやけどな、歌うたう時にな、その歩きまわりよる子、後ろで最後、先生の後ろのパイプイスに座ってな、全員ボクに手拍子してくれたでよ、ボクに。あったかいよ、心が。何か求めて生きとるよ、心が。ボク思うんです、

そういうあったかいものを求めて生きるんやけど、その時に具体的な方法、子どもに何かがんばらす、子どもに何かを主張させてやらす、それは反対。ほなって、もしな、先生に言うてチクったり、もし自分の親にチクってばれて、いじめが悪化したらどないするん。誰が責任とるん。絶対そんなことようせんわ。子どもはがんばらんでいいよ。子どもはな、自分に被害が被らんように手紙でも何でも、自分の名前書かんでも匿名でも何でもいい。かんまんけん、こうやって先生のとこばらまいてな、陰でこそつと机の上でも置いてな、それもできんかったら手紙でも送りな、それで十分。あとは全部オレらが何とかする。ほれが大人の役目。みんなに「差別なくそう」やズレとると思う。そんな中で、宏美ちゃんはみんなと同じような感じで、同和教育受けて来たんやけど、実際は苦しい思いしたんは、ボクやないんですね。差別受ける側のボクじゃなかった。部落問題を受ける側のボクじゃなかった。そんな中で、やっぱりボクらが活動してる意味って言うのは、みんなに相談してもらえよう人間になりたいなど。いつでもね。気兼ねなく。そう思うんです。そのために、ボクは生きていきよるかと思えます。だからみんなは幸せになって欲しい、その願い一つだけです。長くなりましたが、いったん終わります。あ、ほな、宏美ちゃん。



中倉宏美さん さっき発表してくれたので、返したいと思います。私も神山町出身で、被差別部落がないと言われている町で過ごしてい

ました。だから小さい頃から母親とか特に、「部落の人には気を付けないよ。あそこの地区を通る時には気を付けない。犬とか猫をはねたら恐いけん。」とか言われてました。結婚したらいかんとか、そこまでは言われてなかったですが、とにかく気を付けとけと言うことでずっと言われてました。で、私が人権問題のことで勉強してきたのは、学校で勉強はしてるんですけど、こういう講演会とか話し合いとか全然なくて、本当に教科書で学んだこと、あとは人権の発表会。作文を書いてみんなの前で発表するとか、そういう学びしかなかったのが、全然実感がわいていませんでした。で、実際に結婚する時になって、母親とか家族親戚から、みんなに反対をされた時に、今まで仲のよかった友達、同じ神山町出身の友達とかにも相談はしましたが、私と同じような勉強しかしていないので、結局みんなどうしたらいいのかわからないんです。このままずっと何年も粘ってみて、親があきらめるまで待ったら、とかそういうことも言ってたし、具体的にどうしたらいいかってことは全然出てきませんでした。で、一番しんどい時に助けてくれたのが、私の友達ではなくって、彼が連れてきてくれた仲間、彼が人権学習をずっとしていたからこそいろんな結びつきがあって、しっかり学習をしている人たちが、私のことを支えてくれました。そんな中で、結婚に向けて自分の気持ちを切り替えることができた。さっきも言ってくれたんですが、そこまでたどり着くにはすごく時間がかかりました。すごく簡単なようなことなんですけど、本当に自分の中で切り替えができるようになるまで、すごく時間がかかって、もしもみんなみたいに勉強してて、きっちり知識もあって、そういうのがあれば、もう少し早く差別に対しても対応できたと思うし、彼に対しても、彼の家族に対しても、しんどい思いをさせなくてすんだん違うかなって思いました。なので、みんなにはこう

いう所に集まった友達一人ひとり、つながりを持って、大切にしていってほしいと思います。

司会者 今話を聞いてでもいいので、意見ありませんか。ラスト10分なのでどんどん発表してください。

「G」中学校gg 3年のggです。私は「G」中学校で学んできました。これだけ部落差別について学んできたのは、私も含めて知りさえもしなかった人が多かったからだと思います。こうやって今日ここに来て、みんなが舞台の下から言ってる意見とか、発表とか、中倉さんが話してくれて、本当につらい思いを聞くことができ良かったと思います。帰って同じ中学校の人たちに伝えていきたいです。終わります。

「G」中学校hh 3年のhhです。今日は部落差別について学んで、私も町とかで障がい者とかを見たら変な目で見ていました。でもそれは差別と同じなのでこれからはやめていきたいです。

「F」中学校ii iiです。中倉さんの講演を聞いて、ここまでひどいもんやとは初めて知りました。大人までもがひどい差別するとは、本当にひどいなあと思いました。

「T」中学校jj 1年のjjです。私も話を聞いて周りのみんなのことをよく見て、いじめられている人とかがいたら、ちゃんとその人に気付けてあげられるようにしていきたいです。

「G」中学校kk 3年のkkです。今回人権学習に参加させていただいて、知ることって本当に大切だなと思いました。私は、最近親から聞いて知ったんだけど、私のけっこう遠い親戚で部落差別をされていた人がいます。私は最

近そんなことを知って驚いていたんですけど、私は部落とかそんな関係なく、人と関わっていきたくと思っています。

「G」中学校ll 3年のllです。私はよく母と出かけることがあるんですけど、母はいつも「こらへんは事故したら大変だから、あまり大人になって事故せんように気を付けよ。」とか、母はいつも部落差別みたいなことをするので、私はまだ部落差別の学習をする前は、いつも「そうなんじゃ。分かった。」とか言っていたけど、この部落差別の勉強をしてきて、今は母にそんな関係ないって言えるようになったので、この勉強してきてよかったです。

「W」中学校mm 3年のmmです。ボクはさっきの話聞いて、そこまで差別するのはひどいなと思いました。

「T」中学校nn 3年のnnです。すいません。ちょっと部落差別のことから離れるんですが、ボクの妹が、クラスの中でかなり嫌なあだ名をつけられまして、そのことでけっこう深く気に病んで。ほんで、そのことをそいつの担任に言うんですけど、反応がいまいちで、ほんでボクのお母さんが学校にそれとはまた別の用事で「T」中に来たんですけど、その時にちょうど校門の所に担任がおって、「ついでにその話しましょうか」と言われて、「ついでになって何ですか」ということで、ごっつい怒ったんですよ。で、その後に対応もなく、うやむやなまんまで、一応クラスの中でそういうことはなくなるとるみたいなんですけど、ちょっと納得いかないと思います。

「W」中学校oo 3年のooです。今日、部落差別の話聞いて、もしも自分の親が部落の出身だったら嫌だなあと思うのに、前に出た人たちは精一杯生きる気持ちがあって見習いたい

と思いました。

「W」中学校pp 1年のppです。ボクはイジメや差別や悪口を言ってる人を注意できるようになりたいです。そのために、授業中とかで大声でしゃべったりする人がいるので、注意できるようにになりたいです。

「Y」中学校qq 3年のqqです。この場を借りて宣言したいと思うんですけど、ボクはこれからというか、ボクは絶対に差別はしません。思った理由は最近のことで。自分のクラスに障がい者がいて。その子に障がいがあるということに対して、自分にしても放っとけないような発言をした時に、それを注意したんですよ。その時、「それが差別」と初めて発言ができたというか、それを止めることができ、とって自分なりにうれしくて、気持ちも晴れて。それがきっかけで差別やいじめとかは悪いことって分かつとるけん、それを止める者でもあり、言わない者でもありたいと思ったので、こういう宣言をしたかったんです。終わります。



「D」中学校rr 3年のrrです。私も部落やけど、部落で悪かったなっていうことないし、差別も受けたことないし、今も幸せやから、これから差別受けることがあっても、部落って後ろめたがらんと前向きに生きていきたいと思えます。

「D」中学校ss 3年のssです。いじめられとる

人とか、差別されとる人が目の前におつたら、周りで一緒になって見よる存在じゃなくて、止められる存在、止められる人になりたいです。

「G」中学校tt 2年のttです。中倉さんが友人に助けられたと言っていたように、私も私自身の生活の中で、友達ってとても大きな存在だと感じました。私は夏休みになる前のある日、友達に、机に私のこと嫌いていうことを書かれました。その時、私は悲しくって、自分ではどうすることもできなくて、とても悔しかったです。でもそのことを友達に相談すると、「あなたは悪くないよ。私はあなたの味方だからね。」と、何人もが言ってくれて、とてもうれしかったです。その友達のことを、私はとても尊敬しています。そんな友達をこれからも大事にしていきたいと思います。私もそんな人になれるように努力します。

司会者 最後にしたいんで、意見がある人は手を挙げて発表してください。最後に意見ある人、手を挙げてもらえますか。

「F」中学校uu 3年のuuです。去年、うちの学校でもそういう部落差別の話し合いをした時に、「私は部落です」とか、自分で勇気を出して発表した人にとっても感動したので、そういう人たちのためにも部落差別をなくしていきたいと思います。

「Y」中学校vv 2年のvvです。この会に参加して、去年も参加してたんですけど。去年1年生だったということもあって、あんまり話とか聞いてなかったんですけど、今年またこの会に参加して、やっぱりみんな真剣に語っているなと思って。次に学校に行った時、2年生全体が、また「Y」中学校全体がこうやって熱く語れることができたらいいなと思うし。「Y」は熱く語るといったら部落問題のことが

多いもんで、部落問題を語るんは決して地区出身だけのもんでないと思うし、地区で生まれなかった子でも、ボクも地区外の人やけど、一緒に部落解放運動に加わりたいなとか、いろいろ言葉があるだろうし。一緒に部落問題を解決していこうとするうえて、他人事と思っとる人が一番の敵と思うんで、他人事と思っとる人をワガコトに変えるためには、今こうやってこんな会に来とる人から、学年とか学校に行つて、みんなに伝えていったらいいかなと思いました。



「Y」中学校qq 3年のqqです。最後にみんなに、このことだけは思っておいて欲しいということがあって。さっきから、「ボクは部落です。」とか「部落じゃないです。」とかほういんがあるけど。ボク自身は確かに住んどる家は部落外かもしれんけど、決して「部落じゃないです」とは言いたくないです。なぜかという、自分のご先祖さまとか、自分が生まれた頃にはおらん人とか、その時は部落だったとか、正直言ったら父さんが部落とか分からんし、母さんが部落っていうんも分からんけん、真剣なこと言ったら自分が部落じゃないって言い切れん気がするんですよ。なけん、多分みんなもそんな感じで分からんと思うんで、絶対に言い切らないでください。「ボクは部落じゃないです」的な感じで。これだけは思っといってください。

「Y」中学校ww 3年のwwです。私は部落差別の問題に初めて出会ったのは小学校5、6年か

ら中1の間だったんですよ。部落っていう言葉は小学校の時も知ってたんですけど、ほれはその言葉だけを知ってて、意味は知らなかったの、何なんだろうって思ってたんです。けど、それを初めて知って、そこからが私の小さなターニングポイントだったので、そのことがあってから物事の見方が変わって。差別の本質とか、ほういうのを見極める目も養ってきたし、まだまだ養なわなあかんし、なので私の人生において、部落差別の問題は一生関わっていくことだと思うので、その問題に直面した時、私とか友達とか家族とかが直面した時に、その人を守るように勉強もするし、努力もしたいし、そういう目とか知識を養って、なおかつ行動力もある人間になりたいです。



「Y」中学校xx 3年のxxです。ボクの親のお父さんは部落の人で、お母さんは部落の人じゃなくて。ボクのお父さんは昔、高卒で大阪に出稼ぎに行っって、ほれで何か問題があつて徳島に帰ってきて。徳島で父さんの友達がお母さんを連れてきて、ほれで仲良くなって結婚したんですけど。ほれで学習会とか中友とかに、2人とも親は、「休まんと行け行け」って言よんやけど。親とかに、「何で徳島に帰ってきたか」って聞いても教えてくれないんで、多分差別にあったと思うんですよ。ほれで、部落問題とかほういうんを学んで欲しいんやけど、親とかは語ってくれないんで、ちょっと成人になるまでに親に自分から勇気出して聞き出していきたいと思います。

司会者 これで全体会午後の部を終了したいと思います。みなさん、ご協力ありがとうございました。有意義な話し合いができたと思います。今日の話し合いをきっかけに人権問題をさらに深く考え、各学校に持ち帰ってください。それでは全体会午後の部を閉じることにします。ありがとうございました。